

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	長崎県立大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ナガサキケンリツダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	経営学部、地域創造学部、国際社会学部、情報システム学部、看護栄養学部
	担当教職員名・役職	谷澤 毅・学生部長
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	47
	受入企業等数	24
	受入企業等名	<企業インターンシップ試行(10社)>佐世保商工会議所、東七株式会社、株式会社栄広エージェンシー、させぼパール・シー株式会社、株式会社九十九島グループ、永代ハウス株式会社、ハウステンボス株式会社、西肥自動車株式会社、株式会社エレナ、株式会社ジャパネットたかた<海外ビジネス研修試行(14社・機関)>JTBシンガポール、シンガポール伊勢丹、AAIC、西海陶器株式会社、株式会社ベスト電器、西日本鉄道株式会社、CLAIR、テニスファクトリー、日本通運ベトナム、JCS、NHHK、MPテレコム、HISベトナム、ベトナムダナン人民政府
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ、2.有給インターンシップ、3.海外インターンシップ、5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ、6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ、7.中小企業でのインターンシップ、8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ、9.その他
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	平成28年度に学部学科改組を行い、全学部学科にて実践的な教育の一環として長期のインターンシップ(3年次配科)を必修専門科目又は選択必修専門科目と位置付けた。本格実施(平成30年度)に向けたインターンシップ試行として、全学教育(教養)科目「インターンシップ」(配当年次2・3年)として実施した。	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	3年次必修科目又は選択必修科目であるインターンシップの本格導入の前に、実践経済学科(定員130名)の必修専門科目「企業インターンシップ」(期間1ヶ月)、国際経営学科(定員60名)の必修専門科目「海外ビジネス研修」(期間3週間)について、研修の前に大学と各々企業がそれぞれ3回～5回にわたり交渉・協議を重ね、実務業務を就業する本学独自のインターンシッププログラムを作り上げ実践した。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している、6.当該インターンシップは、選択科目として実施している、8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している、9.その他
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	全学部学科に実践的な教育の一環として導入した長期のインターンシップ(3年次配科)の試行として、全学教育(教養)科目「インターンシップ」(配当年次2・3年)を実施した。
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次～3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	シラバスの到達目標には「インターンシップを通し企業・団体への理解を深め、実践科目のインターンシップ科目に繋げる」と期待する教育的効果を明確にした。体系的なプログラムとして研修企業から個別評価制度を導入し、客観的な成績評価を行った。成績評価方法については研修終了後に企業より意見等を聴取し改善を行っている。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている、2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている、4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている、2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの前に「マナー講座」、「電話対応」、「研修企業研究」、「業界研究」等を事前学習と位置付け実施した。また、随時担当する学科の教員でエントリーシート添削や業界研究等のアドバイス等を行った。	

	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後学習として、インターンシップで学んだことや経験したこと等を各自報告書としてまとめ、学内インターンシップ報告会を実施している。当該報告会には受入企業も参加している。また、研修先によってはインターンシップ期間中に最終報告会を行う企業もあった。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	研修期間中に教職員が随時研究企業を訪問し、学生の状況等を企業側に確認し、受入企業と意見交換、情報共有等を行った。また、受入企業に支障がない程度に学生への面談を実施し、教職員より適宜アドバイス等を行った。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	研修後にGATB(一般職業適性検査)、VTI(職業興味検査)を行い職業に関する適性測定を行った。協働した体系的なインターンシップのプログラムとしての取組として、研修企業から個別評価制度を導入し、客観的な成績評価を行った。成績評価方法については研修終了後に企業より意見等を聴取し見直し改善を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 実施期間5～22日間
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実践経済学科の必修専門科目「企業インターンシップ(期間1ヶ月、3年次配科)」、国際経営学科の必修専門科目「海外ビジネス研修(期間3週間、3年次配科)」の実施に向けて試行を実施した。平成28年度は、大学と企業の日程調整により5日～22日の研修期間での実施となった。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している。7.その他
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	大学と佐世保商工会議所との包括連携協定に基づき、インターンシップを実施している。
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	研修終了後に企業側の研修担当者と大学教職員で意見交換会を行った。意見交換会では、大学教職員と受入企業の双方意見を出し合い、今後のインターンシップ研修内容・研修報告書・成績評価方法・研修方法等について協議検討を行った。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://syllabus.sun.ac.jp/ext_syllabus/syllabusReferenceContentsInit.do?sessionId=qvYhAjJkUkjTSZGTSjfgUg6d.kmap1?subjectId=046900030953&formatCode=1&rowIndex=0&jikanwariSchoolYear=2017
問い合わせ先	大学等名	長崎県立大学
	担当部署名	学生部学生支援課教務グループ
	担当者役職名	リーダー
	担当者氏名	田川 麻彦
	電話番号	0956-47-5706
	メールアドレス	kyomu@sun.ac.jp